

27年1月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 12月20日～ 27年1月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は14社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/1月	2月	3月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 33.3	△ 33.3	△ 41.7
	マツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 41.7
	広葉樹	△ 42.9	△ 42.9	△ 32.1
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 31.8	△ 31.8	△ 27.3
	マツ	△ 22.7	△ 27.3	△ 27.3
	広葉樹	△ 20.8	△ 20.8	△ 16.7
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 33.3	△ 41.7	△ 41.7
	マツ	△ 45.8	△ 45.8	△ 45.8
	広葉樹	△ 50.0	△ 46.4	△ 42.9

・チップ用国産原木の入荷、消費及び在庫は3ヵ月連続して減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/1月	2月	3月
スギ・ヒノキ	29.2	16.7	16.7
マツ類	20.8	16.7	16.7
広葉樹	19.2	15.4	15.4

・チップ用原木価格は3ヵ月連続して強保合で推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・針葉樹は、再生事業、システム販売等の増加で入荷増が見込まれる。広葉樹は天候に左右されるため多少入荷減少(東北)。
- ・雪の影響が予想されるが、大きな変動はなし(中国)。
- ・スギ、ヒノキ原木値上がりにて入荷増加になっているが、2月、3月は雪の心配あり。消費は変動なし。在庫は当月やや増加であるが、積雪の影響で減少も考えられる(四国)。
- ・生産減で仕入調整を行う。消費は減少傾向で推移。生産減少で在庫が若干増加(九州)。
- ・バイオ燃料に引っ張られているためか、入荷減。消費は材料不足のため減になると思う(東北)。
- ・N材(スギ)主体により、L材チップの入荷が減、消費、在庫は減少(東北)。
- ・降雪で原木入荷は減少(北陸)。
- ・仕入れは減少、県内のバイオマス発電所に材が流れている、雪で奥山の作業が中断している(中部)。
- ・近県でバイオマス工場が稼動し製紙チップが不足気味、製紙各社はチップ価格を上げた。弊社も原木確保のため値上げに踏み切ったが、まだエネルギー利用の方が価格は高い。弊社もエネルギー利用にチップのウェイトが増えるのは必死(中部)。
- ・スギ、ヒノキは国有林システム販売が今月は余り出てこないため仕入れはやや減少、2月から通常に戻る。広葉樹は支障木を主に通常並み。針葉樹・広葉樹共に製紙向けにフル生産、但しスギ、ヒノキは発電向け間伐材等は備蓄せざる得ないため製紙用に向けられる原木在庫次第で今後の生産が左右される。スギ、ヒノキ製紙用丸太は消費が良く、間伐材等は備蓄しているため、在庫減少。発電用は種別増し、広葉樹は微増、微減(九州)

(原木価格)

- ・広葉樹の不足で多少の値下げ(東北)。
- ・原木購入価格は見直しの状況であるが、現在の出荷価格では採算がとれない現状である(中国)。
- ・変動なし(四国)。
- ・変動なし(九州)。
- ・バイオ燃料に少しでも近づけるためやむを得ず値上げ(東北)。
- ・素材の入荷減少で価格高騰(東北)。
- ・バイオマス発電所との原木の取り合いが起きている、L,N共に値上がり(中部)。
- ・発電用の間伐材等の原木は上昇してきたが、この辺が上値。今後は低迷していた製紙用の原木価格が見直されよう(九州)。

27年1月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/1月	2月	3月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 30.0	△ 40.0	△ 35.0
	マツ類	△ 40.0	△ 45.0	△ 50.0
	広葉樹	△ 37.5	△ 37.5	△ 37.5
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 27.3	△ 36.4	△ 36.4
	マツ類	△ 36.4	△ 31.8	△ 40.9
	広葉樹	△ 37.5	△ 33.3	△ 29.2
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 35.0	△ 40.0	△ 45.0
	マツ類	△ 55.0	△ 60.0	△ 55.6
	広葉樹	△ 54.5	△ 54.5	△ 54.5

・木材チップの生産、出荷及び在庫は3ヵ月連続して減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	27/1月	2月	3月
スギ・ヒノキ類	16.7	4.2	4.2
マツ類	12.5	4.2	4.2
広葉樹	14.3	3.6	3.6

・木材チップ出荷価格は3ヵ月連続してやや強保合ないし保合で推移。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・広葉樹の入荷減により、スギ、マツに変更して増産(東北)。
- ・製紙用マツ類原木の12月末の在庫が増加したため1月、2月の生産はやや増加の予定、その他は変動なし(中国)。
- ・燃料用生産は安定、製紙、ボード用は一般原木不足にて生産減少。出荷は燃料用は安定、製紙・ボード用は減少(原木不足にて)。FIT用チップは、在庫がやや増加又は横ばいを維持。製紙・ボード用チップは生産分はすぐ出荷のため在庫なし(四国)。
- ・出荷は、注文減で推移(九州)。
- ・材料不足のため、生産減、出荷減(東北)。
- ・在庫の減少により減産、出荷は減少変わらず、在庫変化なし(東北)。
- ・製紙用・ボード用は、原料の入荷悪く、生産減少。各社より増搬入の要請あるが原料不足で生産できない、在庫は減少。燃料用は、解体材の入荷減少、生産調整している、増納入の要請には古い製品在庫を切り崩して出荷、在庫は減少(中部)。
- ・生産、出荷はスギ、ヒノキ、広葉樹共フル稼働で、増産に当たっている(九州)。

(木材チップ価格)

- ・変動なし(東北)。
- ・変動なし(九州)。
- ・製紙会社に値上げを働きかけたい(東北)。
- ・変わらず(東北)。
- ・製紙用は、NC, ピンチップは11月～12月で各社値上げを実施した。燃料用は、1月度より各社値上げに動いている(0.5～1.0円/生t)(中部)。
- ・原木価格の改定に伴い、チップ価格の改定を要望するところ(九州)。